場所　滋賀県甲賀市

面積　25ha

活動目的

子どもたちが自然とふれあいながら、遊び・学び・創るよろこびを体験し、自然を学習することにより、子どもたちの豊かな心を育み、生きる力を養い、健全な成長に寄与すること。また、地域に根ざした自然の公園、自然系の博物館としての役割も担う。



サイト概要

滋賀県甲賀市に位置する、里山の環境をいかした都市公園。丘陵地の雑木林、人工林、草地、田んぼや畑などの自然環境が広がっている。園路が整備され、散策することができる。ササユリなど、甲賀市の湿地や林など里山の環境を特徴づける生物が生息するほか、バッタ類など普通種もみられる。

小学校や保育園などが校外学習や森林環境学習のため利用されることも多い。土日は家族連れの方の来園も多い。

自然館では甲賀市の地質や生物など、自然についての展示がある。

土地利用の変遷

丘陵部はヒノキやスギ林、谷は休耕田となっていたが、水口町（当時）が土地を買収し、園路、農場、広場、自然館などを整備して、「みなくち子どもの森」として平成13年7月から一般公開を開始した。それ以降、水口町（平成16年10月から甲賀市）が里山の環境をいかした公園として管理運営している。

サイト周辺の環境

滋賀県甲賀市水口町の丘陵が広がり、その一部に、みなくち子どもの森が位置する。みなくち子どもの森周辺にも里山林が広がっているが、日常的な手入れがされているとは言い難い。

アピールポイント

市の中心市街地に近い場所でありながら、里山の自然を楽しむことができる。公園であるので、散策等でこられる方も多い。専門職員が配置されて、自然に関する調査や園内の管理を行っている。里山の自然について知っていただくため、市民向けの行事、学校の学習の受け入れ、自然館での展示を行っている。

生物多様性の価値

価値（１）公的機関等によって、生物多様性保全上の重要性が既に認められている場

【選定されている制度名】

「生物多様性保全上重要な里地里山　No.25-8　甲賀市域内（水口丘陵・甲賀丘陵・甲南丘陵）の里地里山」の一部（環境省）

【選定理由や内容】

「生物多様性保全上重要な里地里山　No.25-8　甲賀市域内（水口丘陵・甲賀丘陵・甲南丘陵）の里地里山」の一部（環境省）

　市街地近郊に位置しながら、谷津田、雑木林、草地、ため池、水田や畑などのモザイク状の土地利用が維持されている。みなくち子どもの森園内においても、里地里山に特徴的かつ希少な種も確認されている。



写真の説明：体験農場。田んぼ、畑の状況。



写真の説明：丘陵地の谷に立地する「森の広場」

生物多様性の価値

価値（3）里地里山といった二次的な自然環境に特徴的な生態系が存する場

【場の概況】

丘陵地帯に3本の谷がある谷津田の地形である。丘陵部はコナラを中心とした雑木林、ヒノキ植林地、竹林、法面草地、ため池、湿地、体験農場（水田と畑）といった多様な里地里山の環境が形成されている。谷や園路沿いには草地が広がり、普通種のバッタ類なども豊富である。湿地や水路にはニホンアカガエルの産卵が毎年確認される。ササ刈など管理を継続している場所では市の花であるササユリが毎年開花する。

【主な植生】

丘陵部はコナラ林やヒノキ林・スギ林がみられ、一部に竹林が広がる。谷や園路沿いには草地や湿地となっており、ハンノキ林やススキ－クズ群落など。

【確認された主な動植物など】

哺乳類：7目13種。カヤネズミ（*Mycromys minutus*）など。（アライグマを含めない）
鳥類：132種。オオタカ（*Accipiter gentilis fujiaymae*成鳥）、サンショウクイ（*Pericrocotus divaricatus*成鳥）など。
両生類：11種。ニホンアカガエル（*Rana japonica*成体・幼生・卵塊）など。
爬虫類：12種。ニホントカゲ（*Plestiodon japonicus*成体）など。
魚類：7種。
昆虫類：1300種以上。
植物：シダ植物16科44種、種子植物108科678種（草本68科468種、木本52科209種）など。

＊みなくち子どもの森園内は採取禁止です



写真の説明：園内で咲いたササユリ



写真の説明：体験農場内でみられたアカガエル卵塊

生物多様性の価値

価値（4）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

【場の概況】

普及活動として、里山の自然について知っていただくための行事を行っている。令和4年度は46回、参加者382人。また、ササユリ復活をめざしたボランティアグループの活動が2012年から続いており、近年はササユリが毎年開花し、ボランティアガイドも行われている。

【主な植生】

コナラを中心とした雑木林、アカマツ林、ヒノキを中心とした人工林など。

【確認された主な動植物など】

みなくち子どもの森園内でみられる生物のうち、観察会等でよく確認する主なものは下記のとおり。

植物：コナラ（*Quercus serrata*）、シラカシ（*Quercus myrsinaefolia*）、クリ（*Castanea crenata*）、アカマツ（*Pinus densiflora*）、ヒノキ（*Chamaecyparis obtusa*）
両生類：ニホンアカガエル（*Rana japonica*）、シュレーゲルアオガエル（*Rhacophorus schlegelii*）
爬虫類：カナヘビ（*Tokyodromus takydromoides*）、シマヘビ（*Elaphe quadrivirgata*）

＊みなくち子どもの森園内は採取禁止です



写真の説明：学校の森林学習で森の中を歩く様子



写真の説明：行事の一場面。落ち葉を集めて腐葉土をつくる

生物多様性の価値

価値（6）希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場

【場の概況】

丘陵地帯に3本の谷がある谷津田の地形である。丘陵部はコナラを中心とした雑木林、ヒノキ植林地、竹林、法面草地、ため池、湿地、体験農場（水田と畑）といった多様な里地里山の環境が形成されている。このような環境に、希少な動植物が確認されている。

【確認された希少種】

みなくち子どもの森園内では、主に谷部の草地や水路、体験農場周辺の水路で、環境省レッドリストまたは滋賀県レッドリストまたは甲賀市レッドリストに掲載された希少種として、哺乳類3種、鳥類13種、両生類5種、爬虫類6種、魚類3種、昆虫類14種、植物8種が確認されている。

＊みなくち子どもの森園内は採取禁止です。

サイトの活動計画・モニタリング計画

活動計画の内容	モニタリング計画の内容
＜活動目的＞ 　みなくち子どもの森は、里山の自然環境を生かした公園であり、農薬を使用しないこと、園芸品種を移入しないことを基本に、自然環境を保全する。また、子どもたちが観察しやすいように維持する。 ＜活動内容＞ 　日常的な管理では、草刈りを行う際には、園路近くにスズメバチが巣をつくったり来園者がマムシに遭遇したりすることを避けるために広めにおこなうとともに、保護したい植物の開花や結実の時期を考慮する。 ①自然館前広場・園路は、舗装または砕石の路面であり、端から2mは草刈り・ササ刈を行って、スズメバチ等の被害が内容管理する。 ②体験農場・森の広場は、常時草丈を短く草刈し、素掘りの水路がくずれないよう維持し、水田・畑・草地の環境を維持し、幼児も自然観察ができるよう配慮する。 ③雑木林・人工林は、現状の通り管理するが、今後大きくなりすぎた木を伐採していく。2022年度冬期から駐車場向かいの斜面について、3年程度かけて少しずつ状態の変化を確認しながら伐採を進める。この場所の試行経験をもとに、他の場所についても伐採を進める、 ＜実施体制、計画の点検・見直し＞ 　甲賀市が直営で運営し、配属された職員が中心になって、保全や維持管理活動を行う。ボランティアの力を借りることや、草刈や樹木伐採などの作業を業者に発注することもある。	**【モニタリング対象】** 　肉眼で観察できる生物を対象とする。特に、植物相、チョウ類、鳥類は、「モニタリング1000」の対象でもある。 **【モニタリング場所】** 　園内のメイン園路や尾根道を随時巡回する。特に、植物相、チョウ類、鳥類は、設定したルート沿い **【モニタリング手法】** ・職員が随時園内を巡回する。 ・モニタリング1000の対象については、外部の方と協力した調査を定例日を設けて行う。 **【モニタリングの実施時期及び頻度】** ・職員の巡回は随時。 ・月１回の調査を行う。植物は第２火曜日、チョウ類は第４土曜日（冬季は休止）、鳥類は第１土曜日（夏季は休止）、カエル類は1～3月の産卵時期。 **【モニタリング実施体制】** 　みなくち子どもの森職員が行う。ボランティアと調査を行うものもある。結果は、みなくち子どもの森で蓄積するほか、モニタリングサイト1000として日本自然保護協会に報告する。モニタリングサイト1000では2008年から継続して調査を行っており、同様の手法で行う